

唐招提寺金堂身舎支輪 彩色復原 ©唐招提寺 奈良県文化財保存事務所



特別イベント 関西大学 × 多摩美術大学

最新のデジタル技術で巡る奈良・平安の歴史

— 平家物語絵巻・唐招提寺金堂の彩り —

2016年 3月12日(土) ↓ 14日(月) 11時—18時 入場無料

グランフロント大阪 北館

ナレッジキャピタル
The Lab. 2階
ACTIVE Studio

株式会社サビア
VisLab OSAKA

主催 ◆ 関西大学 VOLCANOプロジェクト
多摩美術大学唐招提寺共同研究会

共催 ◆ 林原美術館・唐招提寺

協力 ◆ 国立研究開発法人情報通信研究機構

多摩美術大学美術館

関西大学 なにわ大阪研究センターIPPE

株式会社日立製作所

株式会社サビア



平家物語絵巻 第十巻上 逆櫓 ©関西大学 VOLCANOプロジェクト・林原美術館



巻第十一中「能登殿最期」© 関西大学 VOLCANO プロジェクト・林原美術館

平家物語絵巻

林原美術館が所蔵する絵巻物『平家物語絵巻』は全三十六巻からなっており、平家物語のすべてを流麗な書と絢爛な絵で表わしています。江戸時代前期（17世紀）、土佐左助作とされ、平家物語絵巻の中で全巻揃っている日本で唯一の作品です。705の場面を絵で表しており、全巻の長さの総計が940メートルにもなる大作です。

関西大学 VOLCANO プロジェクトでは、この貴重な絵巻物のうち「第十一巻上」を、最新の超高精細デジタル化技術を用いて1200dpiの密度で可視化することに成功しました。「第十一巻上」（全長33メートル）には屋島、壇ノ浦の戦いのよく知られた場面が含まれています。ち密に描き込まれた名場面を自由に拡大しながら作品の迫力を感じることができ、さらには、通常の展示では確認できない部分まで見られるようになっています。

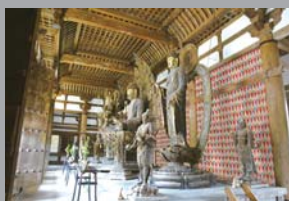
「第十一巻上」には、大阪天満の地に関わる重要な場面も描かれています。往時の大阪の地と平家物語の世界のつながりに思いを馳せながら、絢爛豪華な『平家物語絵巻』の世界をお楽しみいただければ幸いです。



巻第十一中「能登殿最期」© 関西大学 VOLCANO プロジェクト・林原美術館



大紅染 側面 宝相華 部材・白描図 彩色復原図 © 唐招提寺・奈良県文化財保存事務所



金堂仏後壁図像と堂内を合成したイメージ画像

奈良時代・天平宝字3年(759)、鑑真和上(688-763)によって創建された唐招提寺。同寺金堂は天平様式を伝え、1200年の長き時を経た今もその威容を誇っています。そして今世紀に入って行われた「平成の大修理」ではお堂の彩色が詳細に調査され、創建当初の鮮やかな姿が浮き上がりました。

多摩美術大学では同金堂の彩色に注目し、「平成の大修理」の調査で描かれた絵画記録（白描図・彩色復原図）と彩色が残る部材を組み合わせたデジタル画像のプレゼンテーションを制作。インタラクティブな操作により天平の部材と平成の調査記録を比較・拡大いただけます。また同金堂に安置される三尊（盧舎那仏坐像・薬師如来立像・千手観音立像）の仏後壁には、創建当初に図像が描かれていたことが文献によって知られています。痕跡を留めないこの図像について実験的な復原を試み、肉筆彩色復原図と堂内写真をデジタル技術にて融合させました。

貴重な文化財である唐招提寺金堂を舞台にした極彩色の彩りをご覧ください、天平の美へ思いを馳せていただければ幸いです。

唐招提寺金堂

解説会・朗読 3月12日(土)・3月13日(日)

「唐招提寺金堂—よみがえる天平の彩り—」13:30~14:00

多摩美術大学美術館 学芸員 淵田 雄

「平家物語絵巻—激動の時代を振り返る—」14:00~14:30

林原美術館 学芸課長 浅利尚民

朗読「平家物語にまつわる語り」14:30~14:50

ナレーター(元NHKラジオアナウンサー) 植田聖子

司会 角谷賢二 関西大学シニア URA

お問い合わせ先: 042-357-1251 (多摩美術大学美術館) 06-6368-1761 (関西大学研究推進部)

グランフロント大阪 北館

ナレッジキャピタル The Lab.2階 ACTIVE Studio 大阪府大阪市北区大深町3-1

